



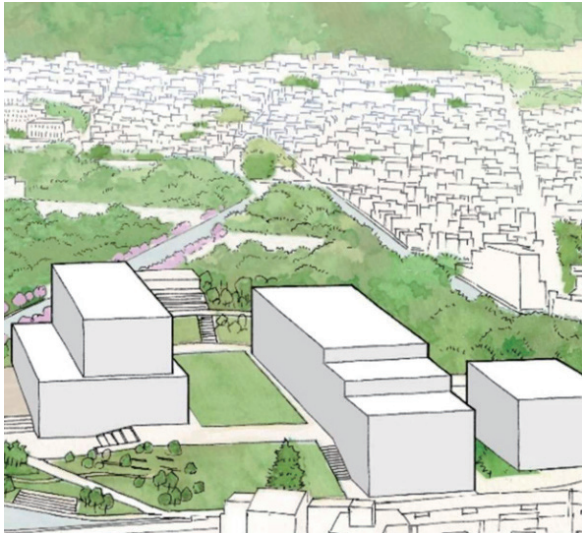
2026年7月10日 第874号



■発行■
関西学院大学新聞総部
〒662-0891
西宮市上ヶ原一番町1番155号
HP: www.kgpress.jp
X: @KG_shinbun
Instagram: kg_newspaper_club

名称決定 神戸キャンパス

神戸・王子公園



神戸キャンパスのイメージ案

学校法人関西学院は6月29日、神戸市灘区王子町の王子公園で準備を進める新キャンパスの名称を「神戸キャンパス」と発表した。開設時期は2031年4月を予定している。

新キャンパスは、約3.5分の敷地に展開される。「国際化、産官学民連携、デジタルを徹底的に強化した新しい学びの場」をコンセプトに掲げ、地域・社会・世界の人人々と情報が交差する「プラットフォームキャンパス」としての役割を担う。都市の利便性と豊かな緑を両立させた空間で、新しい学術・文化拠点を創出を目指す。

本計画は、2023年6月に神戸市の「王子公園再整備にかかる大学設置・運営事業者公募」から大学設置・運営事業者公募の優先交渉権者に選定されたことに始まる。同年12月に神戸市と基本協定を締結し、2025年9月30日には用地の引渡しを受けた。その後、事業の更なる充実に向けた検討を経て、2031年4月の開設に向けて構想の具現化を進めている。

関学大は今後、社会のニーズを反映させた施設計画などの一体的な事業計画を順次公表する方針だ。

(田爪翔)

31年4月開設

◇神戸キャンパスに関する時系列

2022年	12月13日	神戸市が「王子公園再整備にかかる大学設置・運営事業者選考委員会」を設置
	21日	神戸市が王子公園再整備にかかる大学設置・運営事業者の公募を開始
2023年	6月19日	選考委員会の審査を経て、学校法人関西学院を優先交渉権者に決定
	12月22日	神戸市と関西学院が大学の設置、運営についての基本協定を締結
2024年	12月4日	神戸市議会での議決を経て、土地譲渡（譲渡）契約が正式成立
2025年	9月30日	神戸市から関西学院へキャンパス整備予定地（約3.5ヘクタール）を引き渡し
2026年	6月29日	関西学院が新キャンパス名称を「神戸キャンパス」、開設時期を2031年4月と発表 神戸市と「防災・減災の連携に関する協定」を締結
2031年	4月（予定）	「神戸キャンパス」開設

App Store 約2万DL 「関学生のための時間割アプリ」 の現在地



関学生のための時間割アプリ

履修登録の時期、学生はシラバスや時間割などを行き来しながら授業を選ぶ。必要な情報はあがる、すぐに見つかることは限らない。そうした関学生の不便から生まれたのが、「関学生のための時間割アプリ」だ。App Storeでの総ダウンロード数は約2万件、Android版は1000件以上。ウェブ版には、重複を含めて延べ約19万アクセスがあった。

開発したのは、2025年3月に総合政策学部メディア情報学科を卒業した種村圭依人さんだ。開発を始めたのは、大学1年生の秋だった。当初の機能は、時間割画面からシラバス情報を参照できるというもの。履修登

駅へ向かう途中、地面にカメラを向ける人を見かけた。不思議に思い近寄ると、マンホールがあった。蓋に描かれた色鮮やかな阪神甲子園球場と校舎。奥の建物は酒蔵だと、調べて分かった▼マンホールの蓋は地域ごとに柄が異なる。中には、数カ所で見ることができない特別なデザインのものもある。近年ではアニメやゲーム、メジャーリーガーの柄の蓋が話題になった▼そんな個性あふれる蓋を設置する自治体の目的の一つは、下水道事業への興味関心を高め録や授業前の確認で、複数のサイトや画面を行き来する手間を感じたことが出発点だった。

学内に散らばる情報を、学生の生活に沿って一つの画面にまとめる。そうした考えから始まったアプリは、2年生の春には友人も使い始め、3、4年生の頃には利用が広がった。

機能は利用者の声をもとに増やしてきた。アプリ内の質問箱などには、「こういう機能がほしい」という声が寄せられる。種村さんはその声を見ながら、必要だと判断した機能を順に実装してきた。休講やお知らせの通知、単位集計、教室間の移動情報、バスの時刻表などは、日々の利用の中で出た不便に添える形で加わった。時間割を確認するだけだったアプリは、授業前後に必要な情報をまとめて見られるツールへと広がっていった。

追加した機能の中でも反響が大きかったのは、友人の時間割を確認できる機能だ。履修登録時の相談や空き時間の確認に使われ、学生同士の予定調整にも役立っている。

利用者の声に添える中で、掲示板や授業レビュー、検索結果にレビューを表示する機能も生まれた。ただし、レビューを扱う機能には慎重さも求められる。授業に関する評価は、学生にとって参考になる一方、表現によっては誤解や不適切な内容につながる可能性があるためだ。

そのため、生成AIと目視を用いて投稿内容を確認し、表示内容に注意しているという。「シラバスの説明と実際の授業内容にギャップを感じた経験があった。だからこそ、評価機能には責任を持ちたい」と種村さんは話す。

機能が広がるにつれ、運営上の課題も生まれた。多様な端末への表示対応に加え、利用者ごとに求める機能も異なる。要望によって廃止したバス用ICカード機能の復活を求める声が寄せられるなど、意見が分かれることもある。それでも、種村さんは面白い提案であれば、何でも作るという姿勢を大切にしている。

アプリを通じて伝えたいのは、学生自身が不便を解決する側にもなれるということだ。「大学生でも、これだけのインフラを作れるというのを知ってほしい。学生生活で困ったことはみんなで作ってほしい。エンジニアに興味のある後輩がいれば、気軽に連絡してほしい」と呼びかける。

(中泉泰士)

第49回総合関関戦



2～4面

独占インタビュー 永島優美さん



8面



ハンドボール部女子

惜しくも敗れる

バレー部女子
惜敗を喫する

関学大	競技名	関西大
○	スキー競技	●
○	陸上競技	●
○	ボクシング	●
○	水上競技	●
○	ラグビー	○
●	馬術	○
●	航空	○
○	ボート	○
○	洋弓	●
○	相撲	○
●	アイスホッケー	○
○	卓球	●
●	硬式野球	○
△	サッカー	△
○	レスリング	○
●	柔道	○
○	拳法	●
●	バレーボール男子	○
●	バレーボール女子	○
○	ヨット	●
○	バドミントン	●
○	フェンシング	○
●	弓道	○
○	ソフトテニス	●
●	陸上ホッケー男子	○
○	陸上ホッケー女子	○
○	アイススケート	●
○	ゴルフ	●
○	バスケットボール男子	○
○	バスケットボール女子	○
●	射撃	○
○	重量挙げ	●
●	剣道	○
●	テニス男子	○
●	テニス女子	○
●	器械体操	○
○	準硬式野球	●
○	ハンドボール男子	○
●	ハンドボール女子	○
○	アメリカンフットボール	●
○	自動車	●
○	エキシビジョン	○
○	ラクロス男子	●

白熱の関関戦サッカー 引き分けに終わる



後半 43 分に同点ゴールを決める小嶋悠央
=6月6日、仲悠士撮影

関西学院大学体育会サッカー部B1は6月6日、関西大学千里山キャンパス中央グラウンドで第49回総合関関戦に出場し、関西大学と2対2で引き分けた。

試合は序盤から関学大ベースで進んだものの、前半23分DF岩岸幸楽(経済学部2年)のペナルティエリア内でのスライディングがファウルとなり、その後PKを決められ先制を許してしまう。何とか同点に追いつきたい関学大は前半29分MF舛井悠悟(文学部2年)がペナルティエリア内で、相手のファウルを誘い、

このPKのチャンスを舛井自身が落着いてゴール右に決め、同点に追いつく。

その後も前半33分MF岡奨瑛(人間福祉学部2年)のミドルシュートや前半45分MF源平倭人(文学部3年)のシュートなどで関西大ゴールを脅かすも、ゴールキーパーの好セーブに阻まれる。

エンド変わって後半に入ると、後半6分に、スローインからのボールを関西大に奪われ、そこから勝ち越しゴールを決められてしまう。その後関学大は後半から入った選手を起点にチャンスを作るも、

一進一退の攻防戦 惜しくも敗れる

体育会剣道部

関西学院大学体育会剣道部は6月13日、関西大学千里山キャンパス中央体育館で関西大学と対戦した。

通常の団体戦の形式とは異なり、男女混合20人による多人数制の団体戦で試合が行われた。

「前期残り2戦となり、後期も試合は続いていくので全国を目指してチームとして1から積み上げていきたい」と試合を振り返った。(安岡楓馬)

試合を終えて、菅航大主将(経済学部4年)は、「気合を意識して試合に臨んだ。個人としては今までよりいい試合になったと思う。チームと



小手を決めた本郷選手

芝生で堂々の演武を披露

体育会合気道

関西学院大学体育会合気道部は6月14日、第49回総合関関戦で演武を披露した。会場は関西大学千里山キャンパスの悠久の庭。勝敗の集計には加わらないものの、流派の異なる関西大学合気道部とともに技を見せ合い、伝統の一戦に花を添えた。

普段の練習とは異なり、今回は広い芝生での演武となった。桜木俊輔主将(経済学部4年)は「このような広い芝生で演武できる機会はなかなかない」と話す。滑りやすい足元に難しさを感じながらも、「何より楽しんで演武ができた」と充実した表情を見せた。

演武は3部構成で行われた。まず武器演武では、杖を

「最後ということもあり、しっかりと投げ切ることができた」と手応えを口にした。

合気道部は、毎年4年生の引退試合となる6月の第46回関西学生合気道競技大会を終えたばかりだ。演武競技では男子対徒手、女子対徒手、男子対武器、女子対武器、男女混合の計5部門のうち4部門で優勝。さらに、乱取競技でも男子団体戦と女子団体戦で優勝を果たした。

一方、乱取競技の個人戦と演武競技の男子対武器では優勝を逃し、目標としていた全部門制覇には届かなかった。桜木主将は「この夏は、先輩たちが全部門制覇を達成できるよう、個人としても幹部全体としても手助けをしたい



演舞の様子11月14日、関西大学、中泉泰士撮影

三年ぶりに関関戦敗北

硬式野球部

関西学院大学硬式野球部は5月30日、関西大学千里山キャンパス KAISERS BASEBALL FIELDで第49回総合関関戦に臨み、関西大学と対戦した。

関学大の先発は木下鷹大投手(社会学部1年)。いきなり初回から四球、安打、四球で無死満塁のピンチを迎えるものの後の打者を併殺と中飛に抑え、一回表を無失点に抑えた。一回表も二死から安打、四球、安打で二死満塁となったが、打者を三直に仕留めるなど一年らしからぬ集中力を見せた。

三回に招いたピンチは防いだものの四回表、無死二三塁から併殺崩れで勝ち越しを許した。その後再び二死満塁のピンチを迎えるも次の打者を右飛に抑え、四回一死で降板した。

打線は一回裏、三番の村晃佑外野手(法学部3年)の適時打で一点を先制。しかし、その後は好機を追加点とはならず、その後のイン

をかせず、六回表まで無得点に終わった。

投手陣は六回三番手で登板した岡田晴吾投手(経済学部3年)が二死から中堅方向へ打球を打たれ、中堅手の村晃佑外野手が処理しきれず、味方のカバも間に合わなかったため、ランニングホームランを許した。また七回に四番手で登板した飯田泰成投手(人間福祉学部4年)は二死から左翼に本塁打を叩き込まれ点差は三

点差となった。

しかし七回裏の攻撃、エラーと捕手の捕球ミスで一死一塁のチャンスを作り、この日一番の福谷宇楽内野手(社会学部4年)が適時打を放ち二点差、さらにその後一死二三塁でディレードスチールを仕掛け点差は一点差に迫った。

流れが関学大に傾いたと思われるが、その後の打者は三直に倒れ追加点とはならず、その後のイン



先発投手として気迫の投球を見せた木下投手=5月30日、高競文撮影

【用語解説】※ディレードスチール…投手が投げた瞬間以外に行う盗塁のこと。例えばランナー一三塁の場面で一塁ランナーがスタートしキャッチャーが一塁ランナーを刺そうと二塁に投げた瞬間に三塁ランナーがホームを陥れることは得点と見なされる。今試合のディレードスチールはまさにこの形であった。

第49回総合関関戦閉会式 記念すべき第50回へバトンをつなぐ

第49回総合関関戦閉会式が6月14日に、関西大学千里山キャンパスの東体育館2階アリーナで行われた。

式典では関西大学、関西学院大学ともに校歌や追悼歌の大きく力強い歌声が会場中に響いていた。今大会は関西大が19勝で総合優勝を収め、表彰状と優勝杯が授与された。その後、来年度の主催校である関西学院大学に大会旗を引き継がれ、閉会宣言とともに閉幕した。

来賓講師・挨拶で関西大学生センター所長石井光氏は「今回、本場に最後の最後まで勝敗のわからない稀に見る大接戦でありました」と今大会を評価した。また、今大会では弓道の試合を普段見ることができない角度から観戦できるように会場の設営を工夫したり、関大前商店街の方々の協力でスタンブラリーを実施するなど、新たな試みが行われた。その点で伝統ある総合関関戦に新しい風を吹き込むことができたのではないかと話した。

務めた関学大体育会学生本部副本部長の小林優希さん（法学部4年）は、「去年関学大は大きな差をつけて総合優勝できたので、今年も総合優勝をして3連覇を目指していた」と話した。しかし、あと一歩のところで総合優勝できなかったことが残念だったと今大会を振り返る。一方で、どの競技も接戦で白熱した試合が繰り広げられ、第49回が長い総合関関戦となったと語った。

また、小林さんは今大会のスローガンである「戦」について、先人たちの戦績や活躍を大切にしながら新たな道を築いていくという意味があると話した。しかしそれだけでなく、残された歴史から次に活かせる、改善できることも大切にして自分たちの道をつくっていくという意味も含まれており、非常に良いスローガンだと思うと笑顔で語った。

来年は第50回の記念大会である。小林さんは「白熱した試合が繰り広げられて、なおかつ一般学生も集客できて、関学大と関西大の学校全体として盛り上がるような記念大会にできたらいいなと考えています」と来年度への期待を述べた。



両校の集合写真 6月14日、小林颯翔撮影

準硬式野球部

勝ち星を上げる

「と関関戦への意欲の高さを語り、無事勝利を掴んだことに安堵する様子も見えた。また、先制適時打について渡邊は、寺地主将から「思い切つて、積極的に」と声を掛けられ、「ここで打つしかない」と強い決意で試合に臨んだと振り返った。



タイムリーヒットを打つ渡邊蒼汰外野手＝6月14日、関西大学千里山キャンパス KAISERSBASEBALL FIELD、佐藤朝陽撮影

関西学院大学体育会準硬式野球部は6月14日、関西大学千里山キャンパスKAISERSBASEBALL FIELDで総合関関戦公式戦を行い、関西大学と対戦した。試合は一進一退の攻防が続いたが、3対1で関学大が勝利した。

序盤は先発の田中佳太投手（社会学部3年）や一番手の黒田航輝投手（社会学部2年）の安定した投球によって無失点に抑えるも、得点につなげられず試合は拮抗したまま六回を迎えた。

ここで流れを変えたのは五番の渡邊蒼汰外野手（社会学部3年）の会心の二塁打。関学大は一点を先取し、応援の声も活気を増した。その後六回裏で一点を返されるも、七回表の四球で得点のチャンス

を掴み、一番指名打者で出場している寺地悠太郎主将（文学部3年）が見事適時打を放ち再度差を広げることに成功した。

七回裏でも盤石な守備力を遺憾なく発揮し、5人の投手リレーでそのまま失点0で八回、九回をしのぎ勝利を制した。

寺地主将は「因縁のある関西大に対しては、絶対に勝つてやろうという思いがあった」と意気込みを語った。

6月14日に行われた第49回総合関関戦で、体育会アメリカンフットボール部は関西大と対戦し、31対10で快勝した。

序盤は関学大のキックから試合が始まったが、開始4分に関西大がフィールドゴール（FG）を決め、先制を許した。



果敢にプレイするアメリカンフットボール部の選手＝6月14日、関西大学千里山キャンパス中央グラウンド、田爪翔撮影

しかし、関学大は直後、QB星野太吾（社会学部3年）がWRリンスコットトバヤス（国際学部4年）へロングパスを通し、ゴール前まで一気に前進。その勢いで、星野からWR加島輝（社会学部2年）へのパスでタッチダウン（TD）を奪い、逆転に成功した。さらに第1Q終了間際にも、星野からリンスコットへのパスで再びTDを決め、14対3で前半を折り返した。

後半、雨が降り出す中、相手の激しい抵抗に遭いながらも、第3Qには片岡雄大朗（人間福祉学部1年）が47ヤードのFGを決め、先制を許した。試合が始まったが、開始4分に関西大がフィールドゴール（FG）を決め、先制を許した。しかし、関学大は直後、QB星野太吾（社会学部3年）がWRリンスコットトバヤス（国際学部4年）へロングパスを通し、ゴール前まで一気に前進。その勢いで、星野からWR加島輝（社会学部2年）へのパスでタッチダウン（TD）を奪い、逆転に成功した。さらに第1Q終了間際にも、星野からリンスコットへのパスで再びTDを決め、14対3で前半を折り返した。

後半、雨が降り出す中、相手の激しい抵抗に遭いながらも、第3Qには片岡雄大朗（人間福祉学部1年）が47ヤードのFGを決め、先制を許した。試合が始まったが、開始4分に関西大がフィールドゴール（FG）を決め、先制を許した。しかし、関学大は直後、QB星野太吾（社会学部3年）がWRリンスコットトバヤス（国際学部4年）へロングパスを通し、ゴール前まで一気に前進。その勢いで、星野からWR加島輝（社会学部2年）へのパスでタッチダウン（TD）を奪い、逆転に成功した。さらに第1Q終了間際にも、星野からリンスコットへのパスで再びTDを決め、14対3で前半を折り返した。

後半、雨が降り出す中、相手の激しい抵抗に遭いながらも、第3Qには片岡雄大朗（人間福祉学部1年）が47ヤードのFGを決め、先制を許した。試合が始まったが、開始4分に関西大がフィールドゴール（FG）を決め、先制を許した。しかし、関学大は直後、QB星野太吾（社会学部3年）がWRリンスコットトバヤス（国際学部4年）へロングパスを通し、ゴール前まで一気に前進。その勢いで、星野からWR加島輝（社会学部2年）へのパスでタッチダウン（TD）を奪い、逆転に成功した。さらに第1Q終了間際にも、星野からリンスコットへのパスで再びTDを決め、14対3で前半を折り返した。

ラクロス部女子 あと一歩及ばず

関西学院大学体育会ラクロス部女子は6月13日、関西大学千里山キャンパス中央グラウンドで開催された第49回総合関関戦に出場した。

関学大は立ち上がりからリズムをつかめず、第1クォーターで先制点を許す苦しい展開となった。その中で強い存在感を残したのが、AT吉川ニコ（商学部4年）だ。第2

クォーターと第4クォーターでシュートを決め、会場を盛り上げた。しかし追い上げも及ばず、5対7で悔しい敗戦となった。

試合結果を受けて大井里桜主将（社会学部4年）は「練習でのミスがそのまま出てしまったため、普段のプレーから見直さなければならぬ」と冷静に試合を振り返った。

また、スタンバーク紗々副将（国際学部4年）は「同志社戦も経て、チームとして何かを変えなければ勝てない」という危機感が得られた」と試合を振り返った。一方で「チームでこだわっていたプレーを試合で出せたことを自信に変えて次の試合で生かしていきたい」と力強く語った。

また、スタンバーク紗々副将（国際学部4年）は「同志社戦も経て、チームとして何かを変えなければ勝てない」という危機感が得られた」と試合を振り返った。一方で「チームでこだわっていたプレーを試合で出せたことを自信に変えて次の試合で生かしていきたい」と力強く語った。

ファイターズ 執念の守備と多彩な攻撃で 関西大を圧倒



果敢にプレイするアメリカンフットボール部の選手＝6月14日、関西大学千里山キャンパス中央グラウンド、田爪翔撮影

しかし、関学大は直後、QB星野太吾（社会学部3年）がWRリンスコットトバヤス（国際学部4年）へロングパスを通し、ゴール前まで一気に前進。その勢いで、星野からWR加島輝（社会学部2年）へのパスでタッチダウン（TD）を奪い、逆転に成功した。さらに第1Q終了間際にも、星野からリンスコットへのパスで再びTDを決め、14対3で前半を折り返した。

後半、雨が降り出す中、相手の激しい抵抗に遭いながらも、第3Qには片岡雄大朗（人間福祉学部1年）が47ヤードのFGを決め、先制を許した。試合が始まったが、開始4分に関西大がフィールドゴール（FG）を決め、先制を許した。しかし、関学大は直後、QB星野太吾（社会学部3年）がWRリンスコットトバヤス（国際学部4年）へロングパスを通し、ゴール前まで一気に前進。その勢いで、星野からWR加島輝（社会学部2年）へのパスでタッチダウン（TD）を奪い、逆転に成功した。さらに第1Q終了間際にも、星野からリンスコットへのパスで再びTDを決め、14対3で前半を折り返した。

後半、雨が降り出す中、相手の激しい抵抗に遭いながらも、第3Qには片岡雄大朗（人間福祉学部1年）が47ヤードのFGを決め、先制を許した。試合が始まったが、開始4分に関西大がフィールドゴール（FG）を決め、先制を許した。しかし、関学大は直後、QB星野太吾（社会学部3年）がWRリンスコットトバヤス（国際学部4年）へロングパスを通し、ゴール前まで一気に前進。その勢いで、星野からWR加島輝（社会学部2年）へのパスでタッチダウン（TD）を奪い、逆転に成功した。さらに第1Q終了間際にも、星野からリンスコットへのパスで再びTDを決め、14対3で前半を折り返した。

フットサルクラブ Premier' 06 2年連続の全国へ

県大会から関西大会 破竹の快進撃

兵庫県大会

5月31日、三木山総合体育館（兵庫県三木市）で第22回全日本大学フットサル大会兵庫県大会が開催され、関西学院大学フットサルクラブ（Premier' 06）が見事優勝を飾り、連覇とともに関西大会への切符を掴み取った。

関西大会

初戦の甲南大戦は、先制を許すも村上俊介（教育学部3年）のゴールで追いつく緊迫した展開に。後半、主将の坂井耀仁（教育学部4年）のゴールで一度は勝ち越すも同点に追いつかれたが、終了間際に再び坂井が劇的な決勝弾を突き刺し、3対2で大事な初戦を制した。

続く神戸大戦では、前半2分の大平朋輝（商学部2年）の先制点を皮切りに圧巻のチームプレーで一挙5得点を



勝ち越しゴールを決める濱田選手、大経大戦にて＝6月13日、田爪翔撮影

猛進打。後半の神戸大の猛追を凌ぎ、5対3で快勝した。

坂井主将は「全員が練習を積み重ねて僕を信じてくれてきた。明日からしっかりと準備をして、もう一度全国の舞台に行きたい」と力強く関西大会勝利への意気込みを語った。

第22回全日本大学フットサル大会関西大会が6月13日、SHOWAグループ総合体育館（兵庫県加古川市）で行われた。本学からはフットサルクラブ「Premier' 06（フルミエル）」が出場。2年連続となる全国大会への出場権をつかみ取った。

第1試合の近畿大学生物理工学部戦は、関学大が好守備から優位に立ち試合を展開する。前半10分、村上俊介（教育学部3年）が相手のパスをカットし、ロングシュートを放ち先制。続く同12分には主将の坂井耀仁（教育学部4年）のシュートで2点目を挙げ、リードを保ち前半を終えた。後半7分、近畿大の反撃により1点を返されるも、直後に、坂井がフリーキックから直接ゴールを決めて再び2点差に突き放す。さらに同16分に関学大が追加点を挙げ4点目。直後に失点を喫したものの、リードを守り切り4対2で初戦を勝利で飾った。

勝てば全国大会が決まる第2試合の相手は、大阪経済大学。前半は互いに譲らぬ堅守が続く、0対0で後半へ。後半2分、大経大のディフェンスの隙を突いたシュートを放つも、惜しくもゴールポストに跳ね返される。一進一退の攻防が続くなか、試合が動いたのは同9分。坂井が空いたスペースへとシュートを突き刺し、待望の先制点を挙げる。しかし、勝利まで残り11秒となった場面で、チームファウルが5分に達していた関学大は、大経大に第2PKを与え、そのまま同点とされ、試合は延長戦へ。

延長前半1分、関学大は再びファウルを取られピンチを迎えるが、交代したゴレイロの大類魁（社会学部4年）が相手のシュートを防ぎ、チームの流れを引き戻した。勢いに乗った関学大は同終了間際の4分、小林瞳斗（人間福祉学部2年）からのパス

を受け取った濱田一樹（法学部4年）がシュートを決め、2対1と勝ち越しに成功。続く延長後半1分、村上がさらに追加点を挙げ、3対1とリードを広げる。終了間際に再び大経大に第2PKを与えて失点したものの、そのまま3対2で大激戦を制し、全国への切符を勝ち取った。

関西学院

ハンドベルクワイア

部室だより

関西学院ハンドベルクワイアは吉岡記念館2階の研修室1で毎週月曜日、木曜日の午後6時30分から8時30分まで活動している公認団体である。6月4日現在、男子3人、女子8人の合計11人で活動している。

関西学院ハンドベルクワイアの魅力はどこにあるのか。部長を務める石井史桜さん（法学部3年）に話を聞いた。そこには石井さんのハンドベルに対する情熱が見て取れた。

ハンドベルは他の楽器とは違うのか。まず石井さんはハンドベルの持つ魅力について「ハンドベルは一人一人奏でる音が違う楽器で、みんなが違う奏でる音もついています。だからこそみんなの音が一つになると一つの大きな楽器になって、とても音がきれいになるんです」と語った。ハンドベルは一人だけでは音楽にはならない。全員の鳴らす音が噛み合うからこそ一つの楽器、そして音楽になる。このことがハンドベルの最大の魅力かつ面白さなのだ。

ハンドベルがそのような楽器だからこそ、部員同士の協力は不可欠だ。石井さんが「部長として心がけていること」は、「みんな楽しく前に進みたい」という気持ちだ。具体的には「練習で困っていたら答えへの道のりを示す」とことだという。

確かに練習中、石井さんは部員と多くのコミュニケーションを取っていた。リズムをうまく取ることでできない部員には原曲をYouTubeで流し、楽譜を指で追わせリズムを取らせなどの指導の工夫も見られた。

先輩の姿を後輩はどう感じているのだろうか。今回同団体に所属する1年生の多聞祥大さん（文学部1年）と岩本ひまりさん（文学部1年）に話を聞いた。多聞さん「先輩についてどう思うか

前夜祭で両校応援団が演舞

総合関関戦

吹田の晴空に、熱いエールが高らかに響いた。

5月31日、関西学院大学と関西大学の体育会と応援団が合同で、第49回総合関関戦の前夜祭

を開催した。会場はJR吹田駅前のJR吹田さんくす夢広場だ。

前夜祭は、吹奏楽部による関学大の校歌及び関西大の学歌の演奏と、両校の応援団長によるエール交換で始まった。

その後、数々の応援歌に合わせ両校の応援団がそれぞれ迫力のある演舞を披露した。30℃近い気温の中、関学大の応援団総部指導部と関西大の応援団リーダー部の熱気と力強い動き、チャリダーの華やかさ、そして吹奏楽の音色が共鳴し、会場の観客を魅了した。

観客からは「ええええええ」という声援が飛び交った他、応援団と共に応援歌を歌う観客も多かった。

総合関関戦に出場する関学大と関西大の部活動の紹介を挟み、後半には、両校が共演するパフォーマンスステージが行われた。両校の吹奏楽部が共に応援歌を演奏する中、関学大の応援団総部指導部と関西大の応援団リーダー部、そしてチャリダーが一丸となって演舞を披露。両校のライバル関係、そして友好関係をアピールした。

最後には、関学大と関西大それぞれの追憶歌を斉唱した後、両校の応援団長が、自校の優勝と大会の成功を願うエールを送り、前夜祭は終了した。

関学大応援団総部団長である大野俊輔さん（文学部4年）は「昨年から2連覇を達成した関学大と、3年ぶりの総合優勝



関西学院ハンドベルクワイアの演奏の様子



両校応援団が演舞を披露した（山口聡大）

博物館記念講演会

キャンパス・トラディションから読み解く関西学院

関西学院大学博物館は5月26日、企画展「スポーツの想い出・買袋の想い出」体育会と食堂が彩る関学のキャンパスライフ」の開催記念講演会を大学図書館ホールで行った。民俗学を専門とする島村恭則社会学部長が登壇し、関西学院の土不忠義をはじめとする「キャンパス・トラディション」について講演した。会場には学生や関学大の卒業生など、約60人が集まり、熱心に耳を傾けた。



講演中の島村恭則社会学部長
5月26日、図書館ホール、高尾亮央撮影

島村教授は講演の中で、関西学院で語り継がれる、代表的な都市伝説や俗語を紹介し、聴講者らの関心を集めた。先輩から後輩へと語り継がれる伝承は単なる遊びではないと語り、関学学生としてのアイデンティティの確立と共同体形成のための通過儀礼になっていると主張した。

質疑応答の時間では、卒業生が中心となって自らの知っている関西学院の都市伝説や、当時の学生生活の様子を発表し合った。初登壇の噂話には驚きの声が上がリ、会場は和やかな雰囲気包まれていた。

島村教授は、キャンパス内の伝承がコミュニケーションを維持する仕組みになっていることを強調し、「関西学院の新しい『お話』を聞いたらぜひ教えてほしい」と笑顔で締めくくった。

大学博物館の企画展では、1910年代の学生寮の日記や体育会ハッジを展示している。企画を担当した市道寛也さんは「学生目線の展示によって、関西学院の歴史を

日進月歩 常識が生み出すひきこもり問題

「ひきこもり」という言葉が世間において広く使われるようになり、はや四半世紀以上が経とうとしている。ただ、一向に事態の好転の兆しは見えない。

ひきこもりとは、社会的参加を避け、6カ月以上にわたっておおむね家庭にとどまり続けている状態である。内閣府が実施した「子ども・若者の意識と生活に関する調査（令和4年度）」によると、15〜64歳のいわゆる生産年齢人口では推計146万人、およそ50人に1人がひきこもり状態にある。

特に東アジアにおける若者のひきこもり問題は深刻だ。韓国では近年の調査によって、ひきこもり状態にある若者の実態が可視化され、社会問題となっている。台湾では「離居族（まゆの中）にこもる人々の意」と呼ばれ、潜在的なひきこもりの若者が問題視されている。

これらの国に共通するのは、日々の生活や社会活動の根底に儒教の精神があることだ。日本において儒教そのものが意識されることは少ないが、親孝行や年配者を敬う考え方は儒教に由来する。儒教

「癒やす」という立ち直り支援 —ハワイ・カワイロアの実践から学ぶ— 安藤ゼミ主催講演会



講演会の様子 6月22日、西宮上ヶ原キャンパスG号館、渡邊暖菜撮影

人間福祉学部社会福祉学科・安藤ゼミは、6月22日、G号館で古橋拓也さん（社会福祉学部社会福祉学科卒）による講演会「ハワイの司法福祉と社会復帰支援から学ぶ」を開催した。米国ハワイ州で若者の社会復帰支援を行うカワイロア若年者司法プロジェクトの活動など、古橋さん自身の経験をもとに日本・ハワイにおける司法福祉や若者支援について語った。

古橋さんは、卒業論文執筆をきっかけに非行・犯罪に至った人々の社会復帰支援に関心を持ち、卒業後は国内で法務教官、保護観察官等として勤務した。そして、米国で犯罪被害者支援と加害者処遇の調和について研究し、帰国後は法務省や医療少年院での勤務に加え、国際協力業務に携わった。それらの経験を通じて、若者支援について「よく深く理解して自分の言葉で伝えたい」という思いが芽生えたという。

現在は、ハワイ大学マノア校大学院博士課程に在籍しながら、カワイロアというハワイの若年者司法プロジェクトで調査・研究を行っている。カワイロアとは、ハワイ唯一の少年院（Hawaii Youth Correctional Facility）を中心として、敷地内に至った若者たちに罰を与えるのではなく、癒やすことを目指している。このような視点こそが若者の非行・犯罪からの立ち直り支援、ひいては社会全体における若者支援に必要な要素だと古橋さんは語る。ハワイの非行・犯罪の背景や根幹にある問題に着目し、社会全体に働きかけようとしているのである。

日本の非行・犯罪においても、問題の根源や本質について考える視点が必要だという。子どもの非行等の問題の本質はどこにあるのか、と古橋さんは問う。犯罪や非行を個人の問題としてのみ捉えるのではなく、歴史や社会などを含めた構造的な問題として捉え直すことで、本質が見えてくる。このような視点こそが若者の非行・犯罪からの立ち直り支援、ひいては社会全体における若者支援に必要な要素だと古橋さんは語る。ハワイの非行・犯罪の背景や根幹にある問題に着目し、社会全体に働きかけようとしているのである。

もつと身近に感じてほしい」と表情を緩めた。企画展は7月25日まで開催されている。（八島みのり）

技術で課題解決へ 種村圭依人さんの関学大時代と現在



種村圭依人さん

「今の自分にできること、やってみたいことを素直にやるのが大事」。そう語るのは、2025年に総合政策学部メディア情報学科を卒業した種村圭依人さんだ。在学中から学生生活の不便を技術で解決するツールを開発し、卒業後は生成交AIや地域データ分析、教育へと活動を広げている。

戦後から現在にかけて、社会構造や家族の在り方は目まぐるしく変化してきた。だが、常識はどうかだろうか。私たちの常識が、社会の変化に置いていかれているのではないのか。ひきこもり問題の解決に必要なのは、当事者への働きかけだけではない。私たち自身が、長年当たり前にしてきた価値観を見直すことが求められている。

「今の自分にできること、やってみたいことを素直にやるのが大事」。そう語るのは、2025年に総合政策学部メディア情報学科を卒業した種村圭依人さんだ。在学中から学生生活の不便を技術で解決するツールを開発し、卒業後は生成交AIや地域データ分析、教育へと活動を広げている。

特に印象に残っているのは、工学部開講の石浦菜岐教授による「コンピュータアーキテクチャ」と「論理回路」だ。対面、Zoom、アーカイブ視聴から受講形態を選べる授業で、「コンピュータの仕組みを学べた経験は今も生きている」と話す。

学びは講義だけでなくさまざまな技術環境に触れ、大学1、2年生の頃にはオンラインの数学大会を企画。クラウドファンディングで

自治体や事業者の施策改善につながる仕事だ。

活動は教育にも及ぶ。高校でプログラミングを教え、生徒と生成AIを使った作品制作に取り組む。大学生協推薦のウェブ資格講座ではG検定のオンライン講座も担当する。受託開発やレンタルカー関連事業にも関わり、複数の会社や案件に携わるため、北海道から福岡まで各地を行き来する。

種村さんが現役生へ贈る言葉は明快だ。「興味のある授業を履修することは大切だが、進路を考える上ではGPAとのバランスも意識してほしい。その上で、今の自分にできること、やってみたいことを素直にやる。その積み重ねが、将来の選択肢を広げる」と呼びかける。

身近な課題を見つけ、技術で解決する。関学大時代に始まったその姿勢が、種村さんの歩みを支えている。

（中泉泰士）

敷居を低く「クラシック文化の浸透」狙う

関西学院交響楽団とレストランポプラが連携し演奏会

文化総部関西学院交響楽団は5月24日、関西学院会館内「レストランポプラ」で春の特別コンサートを開催した。演奏会はクラシックを身近に感じてもらう、クラシックにあまり関心なかった人々を取り込む事で交響楽団とレストラン双方の発展につなげることを目的としている。また、今年度から年4回の演奏会開催を予定しており、レストランポプラが学生団体と提携するのは初めてだという。

会場では来場者向けの企画も実施された。レストランと連携した限定ミルクレープ

セットでは、楽団オリジナルマグカップでドリンクを提供するなど、音楽への馴染みの薄い人を対象にした工夫が施されていた。

演奏会について、レストランポプラの福原英二さん(49)は「開催するたび、来客者数が増えている。今後は通常の営業ではなく、貸し切りによる実施も検討している」と、継続開催に意欲を示した。さらに「今回のイベントでもぜひ限定メニューを協力してつくりたい」と、さらなる連携への前向きな姿勢を示した。



レストランポプラ内で演奏をする交響楽団の団員(5月24日、関西学院会館内レストランポプラ、小林颯翔撮影)

会場では来場者から好意的な声がかかれ、来場した大阪府在住の女性は「私は音楽に関する教養はないが、演奏を聴くと勇気をもらえて気持ち

が前向きになるため何度も参加している。関学大の音楽環境の良さが特に気に入っている」と演奏会を振り返った。

同志社大学で美学芸術を専攻する男性は「部長とは友人で、初めて交響楽団のコンサートを見て魅了されて以来、何度も足を運んでいる。普段の研究とは違う、新たな視点を得るため参加した。クラシックの敷居が低くなることに期待したい」と語った。

同楽団コンサートミストレスの濱野心さん(人間福祉学部4年)は「毎回レベルは上がっていると感じている。人数が増えるだけでなく、お互いに演奏曲について協議するなど、演奏会が大きくなっていくことがうれしい」と活動の広がりを感じた。

さらに同楽団部長の谷口裕也さん(神学部4年)は「レストランポプラで演奏する意義はクラシックに関心が薄い人にも来場いただけることにある。これまでは学院とのつながりが薄かったが、コンサートと一緒に作り上げる形で今後も関わっていききたい」と今後の連携継続へ意欲を示した。(小林颯翔)

留学生交流会開催
日中韓の学生が交流深める

神戸三田

総合政策学部主催の留学生交流会が、5月28日、神戸三田キャンパス第一厚生棟1階ホールで開催された。中国出身と韓国出身の留学生18人と日本人学生ら36人が参加し、留学生と日本人学生の交流促進や多文化理解の深化を図った。

同交流会は同学部の1年生を対象として、留学生有志によつて企画、運営された。当日はオリエンテーションの後、中国出身代表と韓国出身代表による参加者紹介が行われた。

その後、参加者は中国と韓国の菓子を味わいながら交流した。中国の伝統的な菓子であるサチマやゴマ団子、韓国の伝統菓子やバナナミルクな

どが用意され、参加者らは各国の味を楽しみながら交流を深めた。

より多くの学生が異なる国や地域の参加者と話せるよう、留学生が席を移動する形式を採用。参加者らは学生生活や文化の違いなどについて会話を交わし、親睦を深めた。

会場では終始和やかな雰囲気の中で交流が行われ、笑顔で会話を交わす姿が見られた。留学生と日本人学生が互いにイン스타그램のアカウントを交換する場面も見られ、新たなつながりが生まれていた。

韓国出身留学生代表の姜侑林さん(総合政策学部1年)は「韓国出身留学生の代表としていろいろ心配しまし

たが、とても楽しい交流の場になってうれしいです。このイベントを通じて、日本人学生との交流だけでなく、留学生同士との交流もできて良かったです」と話した。

また、韓国出身の元楨範さん(総合政策学部1年)は「韓国文化が好きなたちと話すことができてうれしかった。たくさんの方々ができた」と語った。中国出身の朱伝一さん(総合政策学部1年)は「交流会終了後も、バスを待ちながら話し続けるほど楽しかったです」と振り返った。

交流会終了後も参加者同士で会話を続ける姿が見られ、交流の輪が広がっていた。(張奕暉)



留学生交流会の写真(5月28日、神戸三田キャンパス第一厚生棟、今村早織撮影)

関学生協が通常総代会開催

25年度は収益改善傾向も6千万円の赤字

関西学院大学生生活協同組合は5月27日、生協食堂「BIG MAMA」で第93回通常総代会を開催した。2025年度決算では収益改善傾向にあるものの、約6千万円の赤字となった。商品開発や経費の見直しにより経営再建を図る方針を示した。

また、関学生協学生委員会(KGGI)の活動発展に向けた意気込みが語られた。

総代として出席した社会学部3年の男子学生は「身近な生協の仕組みを知る良い機会になった」と話した。(田爪翔)



総代会の様子(5月27日、田爪翔撮影)



森絵都『ヒカリノタネ』

音楽ユニットYOA SOB Iの楽曲『好きだ』の原作である『ヒカリノタネ』は、直木賞作家の森絵都氏が手がけた恋愛小説だ。小説と楽曲が連動する点が本作の特徴である。

物語は高校2年生である坂下由舞が、幼馴染である椎太に対して4度目の告白に踏み切れず、友人の樋口一花に相談するところから始まる。

過去3度、椎太に振られた由舞は、今までの告白を後悔していた。初めての告白だからこそ生まれる驚きやときめきが、繰り返すうちに薄れて

しまったのではないかと悩んでいた。

ある時、由舞は「一花との会話をきっかけにタイムトラベルの存在を知った。過去へ戻ってやり直せるなら、失った驚きやときめきを取り戻せるのではないかと。そう考えた由舞は、過去の告白をなかったことにして、「初めての告白」をやり直そうとする。

告白を消していく中で由舞は、自分の好きなものやこれまでの選択が椎太への告白と深く結びついていたことに気づく。過去の告白と向き合った末に、由舞は4度目の告白

を決心する。

過去の失敗や後悔をなかったことにしたいという由舞の悩みに、共感する人も多いだろう。春学期を通じて、多くの人がサークルや部活動など新たな人間関係を築いてきたと思う。その中で、由舞のように失敗や後悔を抱えた人

もいるのではないかと。本作では、由舞が過去の告白を消そうとする。しかし、物語を通して由舞は失敗した過去と向き合い、何度も振られた苦い経験も今の自分に繋がっていることに気付く。

過去の失敗や後悔をやり直したい、消したいと思いつけるのか。由舞のように受け入れ、前を向いて進んでいくのか。あなたはどのように向き合っていくのだろうか。(佐藤朝陽)

等身大で想いを伝える「朝の顔」の新たな挑戦

永島優美キャスター



インタビューを受ける永島優美キャスター＝6月8日、東京丸の内キャンパス、高尾亮央撮影

「皆さん、おはようございます！」。フジテレビ系列「めざましテレビ」・「めざまし8」で朝の顔として多くの視聴者に親しまれてきた永島優美さん（34）。現在、フリーキャスターである永島さんは昨年5月に株式会社「weours」を設立。今年2月には、自身がプロデュースするフルーツブランド「ORVIA」を立ち上げ、フルーツ事業という新たな挑戦を始めた。

行っても「サッカー選手の娘」と周りから認知されていた永島さん。そうした環境に対して、永島さんはプレッシャーを感じること多かつた。その影響で元々は人見知りであった。中学・高校時代はチャリディング部に所属した。しかし、そこで自分自身の性格を大きく変えることはできなかった。その後、関西学院大学社会学部に入学。大学2年生の春、その後の人生を大きく変える出来事が待っていた。神戸で開かれたイベントで初めて司会を務めた。「大勢の人を前に話すことが苦手だったので、とにかく準備をして挑んだ」と永島さんは当時を振り返る。台本に記載されていた内容を細部まで調べ上

げるなど、万全を期してイベントに臨んだ。結果、台本がいらないほど自然と話すことができた。「この時初めて、人前で話すことの楽しさを感じた」と永島さんは回想する。イベント終了後、1人の女性が永島さんに駆け寄り、「あなたの声が好きよ。応援してる」と言葉をかけた。この経験から永島さんはアナウンサーを志すようになった。

永島さんは大学卒業後、2014年にフジテレビに入社。2016年からは「めざましテレビ」のメインキャスターを務め、2021年からは「めざまし8」の初代メインキャスターとなり、多くの視聴者に「朝の顔」として親しまれた。加えて数多くの番組に出演していた永島さん。2025年にフリーキャスターへ転身。のちに、自身が代表を務める個人事務所、株式会社weoursを設立し、ORVIAを立ち上げた。

朝の情報番組を担当する傍ら、スポーツバラエティ番組の司会など幅広く活躍してきた永島さん。収録が続く生活リズムが不規則になる中でも、朝のキャスターを務めた7年間、一度も風邪を引かなかった。永島さんは健康の秘訣を毎日摂取していたフルーツにもあると言及する。朝のキャスターを担当している頃から、自ら市場に赴き生産者や目利きのプロに

話を聞き、フルーツを選んでいった。「生産者が自ら作ったフルーツについて語るストーリーは興味深く、聞いてから（フルーツを）食べるとよりおいしく感じる」と永島さんはフルーツの奥深さを説明する。自身がフルーツの魅力を実感した経験をきっかけに、フルーツをもっと身近なものにしたいという思いで生まれたORVIA。永島さんは、「おいしいフルーツを人々に知ってもらい、手に取るきっかけを作りたい」と考えを述べる。朝食や自分へのご褒美、お土産など幅広い場面ですーツが選択肢に入

ることを目指し、「友人との会話を促す役割や、食べたときの感動体験を提供したい」とその胸中を明かした。さらにORVIAでは、フルーツのストーリーについてより詳しく伝えるため、フルーツを入れる箱や公式サイトの写真、品種カードなど細部にもこだわっている。また、ORVIAは100年以上目利きの歴史がある卸売市場のプロが選ぶ最高品質のフルーツを旬のタイミングで提供している。

商品のこだわりについて永島さんは、「フルーツの旬というのは年によって違う。旬の時期に食べていただけたらいいように毎週打ち合わせを行っている」とフルーツの味に対する並々ならぬ思いを明かした。また、今後のORVIAの展望については、国内のフルーツ消費量が減少している現状への危機感を示した。その上で、「人々が日本のフルーツをもっと生活にとり入れるきっかけづくり」を目標に掲げる。



「諸君、明日はもっと良いものをつくろう！」

アントニ・ガウディ

希望を持って職人たちを鼓舞した。

この言葉をかけた翌日、ガウディは路面電車で轢かれ、数日後に還らぬ人となった。だが、ガウディの構想は、多くの建築家に引き継がれ、サグラダ・ファミリアの建築は続いた。そして、ガウディの死後100年の節目に、その構想は、170以上の高さ誇るメインタワー「イエスの塔」の完成に繋がったのである。

ガウディのこの言葉には、向上心と、諦めない心と、自分を信じてくれる仲間が存在が、大きな物事を成し遂げるのに必要だというメッセージが込められている。

学生生活は大きな物事を成し遂げる絶好の、そして最大の機会である。この機会を逃がさず、ガウディの言葉を胸に、小さな、しかし確かな一歩を踏み出し、新たな挑戦を試みて欲しい。（山口聡大）

加えて永島さんは、他ブランドとのコラボレーションなどを通じてフルーツ業界の可能性を広げている。6月にも菓子店とのコラボレーションイベントを開催した。今後も業界の枠を越えた取り組みを進めながら、日本のフルーツや品種の魅力を発信し、フルーツ業界全体を盛り上げたいと決意を語った。大学時代から現在までのモチベーションについて永島さんは「まっすぐに、丁寧に、不器用でもいいから、等身大で想いを伝えること」と語る。アナウンサーとして情報を届ける仕事に携わった際や、現在ORVIAを通じてフルーツの魅力を発信する際も、その姿勢は変わっていないという。

関学神戸三田キャンパスから一番近い教習所

● 取得できる車種 ●

大型車・中型車・準中型車・普通車(AT/MT)・
大型二輪車(AT/MT)・普通二輪車(AT/MT)

お申込みは、大学生協サービスカウンターにて受付できます。

SANDA AUTOMOBILE SCHOOL

SAS

SINCE 1963

兵庫県公安委員会指定

三田自動車学院

三田市志手原1147-1 TEL:079-562-2995

E-mail:sas.1963@poppy.pcn.ne.jp HP:www.sas-menkyokaiden.com